



20 香川勝廣《深山の滝図巻煙草箱》一点

明治三十八年（一九〇五）  
銀・四分一・赤銅／高彫／色絵・象嵌  
一五・二×一・二×四・九

奥深い溪谷に流れ落ちる滝を中心とする景観が絵画的に表された巻煙草箱で、作品を収める箱蓋裏に香川勝廣の自筆で「深山の滝図」と記される。

蓋表に最も彫金技法が駆使されており、画面全体が複数の銀と四分一の面によって構成されている。左上の後景と右下の前景には灰色の四分一で、右上と左の険しい岩肌を黒色の四分一を用い、その四つの四分一の板に囲まれるようにして銀地の滝が象嵌される。滝の中段に飛び出している岩も左右の岩肌と同じ黒色の四分一である。前景と岩肌は立体感を表すために高彫、片切彫がほどこされている。画面右上から顔を覗かせる枝には、金色絵と赤銅が象嵌された蔦が絡む。特に注目されるのは銀を打ち出して盛り上げた滝の表現である。その膨らみ自体が豊かな水量を表すだけでなく、岩に当たって砕けた粒状の飛沫や、勢いよく流れ落ちる水流を表現する筋状の象嵌が、水の煌めきと大きな躍動感を与えており、香川の技術の高さがうかがわれる。本作も前掲No.19の巻煙草箱のように、側面を装飾する片切彫の図様が大きな役割を果たしており、深山の情景を醸し出す杉木立や、蓋表の滝の流れが手前側面へと続き、あたかも見るものに迫るかのごとくダイナミックに彫り出されている。

本作は明治三十八年七月に開催された日本金工協会の展覧会で宮内省に買い上げられた。底裏に箱の素地製作者と考えられる「則之」の銘が切られている。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治の彫金―海野勝珉とその周辺

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 41

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年九月二十三日発行

© 2006, The Museum of the Imperial Collections